

庁舎・福祉会館の建設 再スタートに向け、中断していた議論を再開



小金井で元気に！小金井を元気に！

五十嵐京子 通信 第63号

小金井市議会議員

2023年7月発行

五十嵐京子を支援する会



白井市長は西岡案をほぼそのまま提案 「昨年の協議を経ての検証」を議員提案として修正

昨年10月に公立保育園2園廃園の専決処分が原因で、西岡前市長が突然の辞職。その後白井市長が誕生し、半年が過ぎた5月に市議会では全員協議会を開催。白井市長は中期財政計画を示し、令和3年11月に示された計画で令和7年度に財政調整基金が8億円まで落ち込むという予測を大幅に修正し、約50億円まで復活することを示した上で、庁舎等建設に関しては西岡前市長が事業を止めていた実施設計をほぼそのまま進めることを表明しました。財政の見通しがよくなったのは、コロナ対策として国などの補助金や交付金が大きく寄与していたという背景があります。

昨年の協議の場での議論を生かすべき

昨年5月に、西岡前市長の求めに応じて議会と市長との協議の場を作り、地下駐車場や耐震構造の見直しを含めコストダウンの方策を話し合ってきました。しかし、

10月にまとめに入る直前に西岡前市長が辞職しましたので、その時点で協議の場は結論を得ず解散しました。

コロナ感染症の財政への影響、そしてその後続いている資材高騰や物価高、さらに小金井市財政の脆弱さがこうした流れの背景にあります。既にこの事業は100億円を超える見込みであり、片や学校の建替え等が始まる現状でも十分な基金がなく、武蔵小金井駅北口に再開発の準備もこれからと、小金井市政全般を見ると市民生活に重要な事業が控えています。だからこそ、少しでも庁舎等建設にかかる費用の削減に努めるのは当然のことです。

議会で修正可決に

6月議会では、白井市長は西岡前市長の実施設計を若干手直しをすることを補正予算として提案、議会の考えは3つに分かれました。1つは提案のまま早急に工事を求

める意見、2つ目はその提案に昨年の協議の場で検討したことを中心に検証を加える案、3つ目はまずは検証費用のみを求める案。私たちは2つ目の案を支持し、このままではどの提案も通らなくなる恐れがあることから、3つ目の案を主張した会派（共産党、子どもの権利を守る会）と話し合いをし、検証はするという点で一致し、協力をして修正案を提案し、可決しました。

今後の見通しについて

まずは、検証をしていただき、コストダウンの状況とかかる期間の兼ね合いなどを見極めて判断する必要があります。大きく設計を変えるのは難しい状況ながら、できるだけの検証をし、多くの関係者の要望である早期完成をめざしていくべきです。

任期後半へ、議会人事一新

この春に、市議会は任期4年の折り返し点になりました。5月に任期後半の議会人事が行われ、役職が新たになりました。私は厚生文教委員会、庁舎等建設及び公共施設マネジメント推進調査特別委員会、湖南衛生組合議会（監査）などに所属します。会派では引き続き幹事長です。



西岡前市長の辞職のきっかけとなった 公立保育園2園の廃園の方向性が決定！

昨年11月27日の市長選挙で当選し、市長に就任をした白井亨市長は第4回定例会を12月16日に招集し初めての定例会に臨みました。この定例会は突然の市長選挙があったことから通常より短く、12月26日に閉会しました。最終日には西岡前市長が専決処分で決めた公立保育園の2園廃園の状態を、白井市長が元に戻す議案を議会に提案し、本会議で審査をしました。第3回定例会で突然の前市長の辞職となり、報道もされたことから、引き金となった保育園の廃園条例を戻すという白井市長の提案には報道機関も成り行きを見守る中で質疑が行なわれました。結果は、自由民主党・信頼の小金井5名、公明党3名、みらいの小金井3名と齋藤康夫議員が反対をし、反対多数で否決となりました。

白井市長が専決処分された議案を元に戻す提案をした理由は、専決処分に対し議会が不承認としたことにありました。しかし、専決処分という方法が議会にとって認めがたい方法であると言っても、実態は市長権限が強くなり、その効力は生きており、既に廃園を前提に体制が決まっているのが現状です。これを元に戻すと言うことは公立園を5園に戻すと言うことであり、元の状態に戻す考えはないことを討論で申し上げました。

さらに、3月議会では、昨年廃園の議論の最中に議員案として出ていた「公立保育園の在り方検討委員会」の設置を、白井市長は行政側から新条例として提案しましたが、こちらも反対多数で否決となりました。こうした経過を経て、西岡前市長の辞職の原因となった公立保育園廃園問題に決着がつかしました。



真蔵院のはすの花は今年もきれいに咲きました

一般質問から

3月議会

終活をサポートする事業を

超高齢社会で一人暮らし高齢者が増えている中、身寄りが無く経済的に困窮している方の葬儀を自治体が行う例が増えていきます。先進市にならって、頼れる身内のない単身高齢者のために、事前登録制で生前の見守りから亡くなった後に手続きなどを行う事業を始めないか、と質問。現在、社会福祉協議会などで行っている事業で実態として亡くなった後の手続きなどができることがわかったものの、市民から見ると、そうした制度がよく調べない

いと分からないことが問題であると指摘、必要とする人に情報が届くような周知をしてほしいと要望しました。

6月議会

自治体DXの進捗状況と課題について

行政事務の効率化と利便性の確保を目的に、行政のDX（デジタルトランスフォーメーション）が進められています。昨年も同様の質問をし、その際「引越しワンストップ」という引越に関わる事務手続きの効率化については、令和5年の2月には始まるとの答弁でしたので、現状を確認しました。既に小金井でも始まっており、転出の際はスマホ等で連絡し、その役所から転入先に連絡が伝わることで、転入先では必要な窓口にも連絡が届いている状態になっていることがわかりました。更に、最近話題になっているのが「書かない窓口」です。小金井も検討を進めることがわかりました。また、他の自治体との連携が必要で、小金井市は10月に立川市・日野市・三鷹市で行っている「東京自治体クラウドシステム」に合流し、DXを進める計画です。

過酷な夏を乗り切るために市ができることは

異常に暑い夏が今年もやってきます。今年は電気料金の値上げもあり、低所得者の方々は厳しい夏になります。公民館や集会所の空いている部屋を「避暑部屋」として、開放しないかと提案、検討を要望しました。

小金井で元気に！ 小金井を元気に！

小金井市議会議員

五十嵐京子

通信
第63号

2023年7月発行

五十嵐京子を支援する会

小金井市本町 3-8-9-312

電話 042-384-9920